

CO2排出量

2030年

42%削減*

2050年

実質ゼロ

1

再エネで経済を
プラスにする・
災害に強くする

■ 再エネの最大限設置・未利用資源の活用・災害時の電力供給体制の整備・普及啓発

- ・公共施設/住宅/事業所/未利用地などへの太陽光発電の導入
- ・陸上風力発電設備の更新(リプレース)
- ・未利用バイオマスの活用検討

再エネ導入目標

<2030年>	<2050年>
2020年実績の2倍	エネルギー消費量(電力)の100%

2

エネルギーを
低コストで
効率よく使う

■ 建物の断熱/省エネ性能向上・ZEH/ZEBの推進・廃棄物の減少・エネルギーマネジメント*・普及啓発

- ・公共施設の省エネ推進
- ・家庭・事業所のエネルギーマネジメント*の推進
- ・市内街灯のLED化
- ・省エネ家電/高効率機器の導入

3

脱炭素で
きれいな空気と
安心を保つ

■ EV/PHEV/FCVの導入促進と災害時の活用・農機具の脱炭素化・船舶の脱炭素化・普及啓発

- ・公用車のEV導入
- ・EVカーシェアリングの整備
- ・公共交通のCO2排出量削減
- ・EV充電スポット/水素ステーションの整備
- ・V2H充放電設備の導入

4

洋上風力と
連携して
銚子創生を
実現する

■ 雇用の創出・視察の受入れ・海洋環境の管理/保全・移住/定住の促進・グリーン水素の製造/利活用

- ・漁業との共生
- ・洋上風力発電メンテナンスの人材育成
- ・洋上風力発電事業の情報発信
- ・新たな観光資源としての活用

洋上風力で発電された
電気の地域活用方策の検討

5

オール銚子で
未来につなぐ

■ 地産地消システムの構築・マイクログリッドによる電力需給管理・グリーンファイナンス*の推進・人材育成

- ・銚子電力株式会社と連携した再エネの地産地消システムの構築
- ・協議会やゼロカーボンプラットフォームの構築
- ・児童・生徒への環境教育

CO2排出量

2030年

42%削減※

2050年

実質ゼロ

1 
再エネで経済を
プラスにする・
災害に強くする


■ 再エネの最大限設置・未利用資源の活用・災害時の電力供給体制の整備・普及啓発

- ・公共施設/住宅/事業所/低未利用地などへの太陽光発電の導入
- ・陸上風力発電設備の更新(リプレース)
- ・未利用資源を活用した再エネ事業の推進
- ・未利用バイオマスの活用検討 など

2030年再エネ目標
2020年実績の2倍
(180MW)

- ・新技術(次世代型太陽光、水素)の活用 など

2050年再エネ目標
エネルギー消費量
(電力)の100%


2 
エネルギーを
低コストで
効率よく使う

■ 建物の断熱/省エネ性能向上・ZEH/ZEBの推進・廃棄物の減少・エネルギーマネジメント*・普及啓発

- ・公共施設の省エネ推進/市内街灯のLED化
- ・省エネ家電/高効率機器の導入
- ・家庭・事業所のエネルギーマネジメント*

・銚子の気候を活かした
ZEH・ZEBの推進

・新技術(カーボンニュー
トラル燃料など)の活用

3 
脱炭素で
きれいな空気と
安心を保つ

■ EV/PHEV/FCVの導入促進と災害時の活用・農機具の脱炭素化・船舶の脱炭素化・普及啓発

- ・EV/PHEV/FCVの導入
- ・充電設備の導入・整備
- ・公共交通のCO2削減

- ・V2H充放電設備の拡充
- ・EVカーシェアリングの整備
- ・EV充電スポット/水素ステーションの拡充

- ・公共交通の脱炭素化
- ・ブルーカーボンの活用

4 
洋上風力と連携
して銚子創生を
実現する

■ 雇用の創出・視察の受入れ・海洋環境の管理/保全・移住/定住の促進・グリーン水素の製造/利活用

- ・漁業との共生
- ・洋上風力発電メンテナンスの人材育成
- ・洋上風力発電事業の情報発信

・新たな観光資源としての活用

洋上風力で発電された
電気の地域活用方策の検討

・余剰電力による
グリーン水素の利活用

5 
オール銚子で
未来につなぐ

■ 地産地消システムの構築・マイクログリッドによる電力需給管理・グリーンファイナンス*の推進・人材育成

- ・銚子電力と連携した再エネ地産地消システム構築
- ・ゼロカーボンプラットフォームの構築
- ・児童・生徒への環境教育

- ・卒FIT電力の地域内活用
- ・大学や高校と連携した人材育成

・地域の再エネ・需要家・EV・蓄電池をつないだマイクログリッドによる需給管理